

ICT を利活用した質の高い教育を実現するための全学的な計画

1. 目的

ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の利活用により、学修者本位の学修の実現、効果的で質の高い教育の推進を目指す。そのため、すべての学生教職員が安全安心に利用でき、教育活動において効果的で効率的な活用ができる ICT 環境の全学的な整備を図ることを目的とする。

2. ICT 環境の整備に関する取組

ICT を利活用した質の高い教育を推進するため、以下の環境整備を実施する。

(1) ネットワーク環境の整備

学内の全ての教室において、Wi-Fi 通信ネットワークを安定して使用できる環境を整備する。

(2) 学生個人パソコンの携帯推奨とモバイル端末の種類を問わない ICT 環境の整備

使い慣れたパソコンでの遠隔授業や課題提出、レポート作成等を行えるよう、ICT 活用を促進し、学生個人パソコンの携帯を推奨する。ただし、何かしらの事情で携帯することが困難である学生に対しては、スマートフォンやタブレット等モバイル端末の種類を問わない ICT 環境を整備する。

(3) 学生個人パソコンによる自習環境の整備

学生個人パソコンが利用可能な環境（電源コンセント及び Wi-Fi）を 100 周年記念館内に整備し、自習等の使用に開放する。

(4) 学修支援システムの整備

既存の学修支援システムである WebClass の利活用に対する学生教職員へ説明会等を定期的に開催し、効率性及び利便性の向上を実現する。

3. 技術支援・教育支援体制の整備

情報教育支援室が中核となり、教育活動において、学生及び教職員が効果的に ICT を活用できるための技術支援・教育支援を実施する。

4. セキュリティへの対応

学生に対してセキュリティに関する説明を実施し、ネットワークの設計及び教員が使用するパソコンにおいても安全な設計及び安全な設定を実施する。

・新入生オリエンテーション等にて情報セキュリティや著作権、情報倫理に関する説明を実施する。

・授業において、セキュリティに関する教育を実施する。

5. DX による学修者本位の学修の実現

WebClass による学修ポートフォリオシステムを用いて、教育課程における学生の習熟度等のデータを収集し、IR 室と連携して分析を行い、それに基づく学生指導を実施する。DX による学修者本位の学修実現に向けた取り組みを推進し、予め設定したアウトプット及びアウトカム指標達成を目指す。

6. DX による効果的で質の高い学修の実現

対面授業とオンライン学習、オンデマンド学習を効果的に併用して教育効果を高め、授業外学修時間の増加やアクティブ・ラーニングの向上を図る。DX による効果的で質の高い学修の実現に向け、予めシラバス等へ明記し、設定したアウトプット及びアウトカム指標達成を目指す。

7. 取組の目標と目指す成果

(アウトプット指標)

- ・ ICT を活用したアクティブ・ラーニング授業数の増加 3→5

(アウトカム指標)

- ・ 学生の学習意欲の向上

→授業評価アンケートの既存質問項目および新規設定質問項目のスコアについて、全科目の平均スコア以上とする。質問項目の詳細は下記の通り。

○既存質問項目

項目 5：あなたの取り組みを総合的に評価してください

項目 16：この授業について授業以外で勉強した時間（自習時間）はどれくらいですか

○新規設定質問項目（DX 設定科目および ICT 活用科目に限定）

ICT を活用した本科目は、活用していない科目と比較して学習効果がどれくらいありましたか。

令和 8 年 3 月 2 日 美作大学